



世界で最も有名な国歌 歌詞の意味知っていますか？

北陸銀行 ニューヨーク駐在員事務所
所長

馬場 正樹



マクヘンリー砦と1814年当時の星条旗
(Wikipediaより)

いきなりですがクイズ。日本のプロ野球で、かつてはパ・リーグだけにあったが、最近ではセ・リーグでも見られるようになったものって何でしょうか？ DH制ではありません。

答えは「試合前の国歌斉唱」です。パ・リーグでは基本的に全試合、セ・リーグでは2014年から3連戦の初戦などに歌われるようになりました。

アメリカ合衆国国歌『星条旗』

日本の「国歌」は（議論はいろいろとありますが）『君が代』ですが、世界で最も有名な国歌といえば、やはりアメリカの『星条旗（The Star-Spangled Banner）』でしょう（『星条旗よ永遠なれ（Stars and Stripes Forever）』という有名な行進曲がありますが、タイトルがよく混同されますのでお間違えなく）。

アメリカではメジャーリーグをはじめとしたスポーツ試合や各種イベントの際にほとんど必ずといっていいくらい、国歌の演奏・斉唱があります。今年のアメリカンフットボールの頂点・スーパーボウル（2022/2/13）では、カントリー歌手のミッキー・ガイトンがコーラス隊を従えて、圧倒的な歌唱力を披露しました。また、マイナーリーグ野球の試合前などには、地元のアマチュア合唱隊や子どもたちなどがグラウンドに出て歌ったりするのも、微笑ましく良いものです。国歌斉唱の際は、出場選手、関係者、観客全員が起立脱帽し一緒に歌います。

アメリカ国歌は日本でも耳にする機会が多く、メロディーはほとんどの人が知っていると思いま

すが、歌詞の方はどうでしょうか？歌詞の意味までご存知の方はそう多くないと思います（筆者もNYに赴任するまで全く知りませんでした）。今回はそんな「世界一有名な国歌」の歌詞の意味について紹介させていただきます。歌詞の内容を知ると、アメリカ人の独立心や国歌に対する思いなどが理解できるかもしれません。

国歌『星条旗』がつくられた経緯

「Oh, say can you see, by the dawn's early light」から始まる『星条旗』は、通常は1番のみ歌われることが多いのですが、4番まであるとても長い曲です。日本語の歌詞は右下枠内のおりです（英文の歌詞は同枠内のQRコードよりご覧ください）。歌詞の中に、「砲弾」「敵の軍勢」「戦争による破壊と混乱」「血で贖う」「敗走の恐怖と死の闇」などといった、過激な言葉が多く含まれていることに気づかれると思います。これはこの歌がもともとは1812年に始まった米英戦争の中で生み出されたからです。1814年9月、メリーランド州ボルチモアの「マクヘンリー砦」が、英国艦隊から一昼夜におよぶ激しい砲撃を受けたにも関わらず、翌朝には砦の上に大きな星条旗（星・縞が各15の当時のもの）が普段と変わらず雄々しく翻っていたことに感動した弁護士フランシス・キーという人物がこれを4節の詩に書いたことによるものです。この詩を当時酒場でよく歌われていた曲のメロディーに乗せて歌にしたのが始まりだそうで、その後1931年、フーバー大統領のときに正式にアメリカ国歌として採用されました。

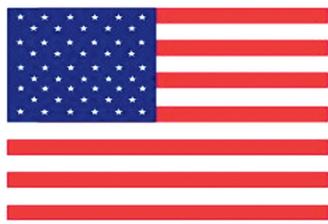
歌詞に込められた愛国心と親しみやすいメロディー

歌詞を見ると、「外敵には決して屈しない」「愛する者は自分たちで守る」「神の加護」「自由の国」という理念・理想が歌いこまれており、アメリカ人は人種を問わず、子供の頃からこの歌を歌い続けることで、愛国心、独立心、自衛心などが骨の髄まで染み込むのではないのでしょうか。

また、楽曲としても、『星条旗』のメロディーは「A-A-B-C」という構成で「起承転結」があり、静かに始まりながら徐々に高揚し、最後は盛り上がって感動的に終わるといっても優れたメロディーです。さまざまなイベントで著名な歌手や演奏家が、オペラ風、ゴスペル風、ジャズ風、ロック風、ヘビメタ風など、それぞれのスタイルで演奏しても違和感がなく、とてもカッコよく聴くことができます。こうした点もこの曲が世界的に有名になっている理由の一つかもしれません（『君が代』をヘビメタ風



1814年当時の星条旗：
星とストライプの数の15は
当時の州の数



現在の星条旗：
星50個は現在の州の数、13本のスト
ライプは1776年の独立当時の州の数

やパンク風に演奏したらきっと怒られるでしょうね。

世界の国歌

余談ですが、世界の国歌には、歌詞に「戦争」「戦い」を含むものが結構あります（表1）。かつて戦争を多く経験した国で、かつ「敗戦の経験のない（少ない）国」の国歌は、こうした勇ましい歌詞になっていることが多いのではないのでしょうか。そういえば、第二次世界大戦の敗戦国、平和憲法の日本や、東西に分割されたドイツの国歌には、戦争の要素はないようですね。「国歌」にはその国のお国柄がよく表れているように思いますので、機会があったらいろいろな国の国歌について、どんな歌詞なのか調べてみるのも楽しいのではないのでしょうか。

表1 世界の国歌

国名	国歌(タイトル)	含まれる歌詞
中国	義勇軍行進曲	我等の血と肉をもって我等の新しい長城を築かん 敵の砲火に立ち向かうのだ！進め！進め！進め！
イギリス	God Save the Queen	敵を蹴散らし、潰走させ、伏兵や暗殺者の手から 神よわれらが女王陛下を守りたまえ
アイルランド	Soldier's Song (兵士の歌)	我等が兵士 この命アイルランドに捧げん 大砲轟き銃声鳴り響く中 我等は口ずさむ兵士の歌を
フランス	ラ・マルセイーズ (マルセイユの歌)	武器を取るのだ、我が市民よ！ 敵の不浄なる血で耕地を染めあげよ！
ベトナム	進軍歌	人民よ 止むことなく戦え 戦場へ急げ！進め！みな進め！
キューバ	バヤモの歌	戦いへ急げバヤモの民よ 汝らは祖国の誇り 名誉ある死を恐れるな

出所：Webサイト『世界の民謡・童謡』

アメリカ合衆国国歌『星条旗 (The Star-Spangled Banner)』

- おお、見えるだろうか、夜明けの薄明かりの中 我々は誇り高く声高に叫ぶ
危難の中、城壁の上に雄々しく翻る 太き縞に輝く星々を我々は目にした
砲弾が赤く光を放ち宙で炸裂する中 我等の旗は夜通し翻っていた
ああ、星条旗はまだたなびいているか？ 自由の地 勇者の故郷の上に！
- 濃い霧の岸辺にかすかに見える 恐れおののき息をひそめる敵の軍勢が
切り立つ崖の向こうで 気まぐれに吹く微風に見え隠れする
朝日を受け栄光に満ちて輝きはためく
星条旗よ、長きに渡り翻らん 自由の地 勇者の故郷の上に！
- 戦争による破壊と混乱を 自慢げに断言した奴等は何処へ
家も国もこれ以上我々を見捨てはしない 彼等の邪悪な足跡は彼等自らの血で贖われたのだ
敗走の恐怖と死の闇の前では どんな慰めも傭兵や奴隷達の救いたりえず
勝利の歓喜の中、星条旗は翻る 自由の地 勇者の故郷の上に！
- 愛する者を戦争の荒廃から 絶えず守り続ける国民であれ
天に救われた土地が勝利と平和で祝福されんことを願わん 国歌を創造し守り賜うた力を讃えよ
肝に銘せよ 我々の大義とモットーは「我等の信頼は神の中に有る」ということを
勝利の歓喜の中、星条旗は翻る 自由の地 勇者の故郷の上に！

(出所：Webサイト『世界の民謡・童謡』)

原語・日本語訳対比はこちらから→

